

平成 29 年 4 月 19 日

各 位

株式会社 新生銀行
新生企業投資株式会社

バイオベンチャー企業に対するセカンダリーファンドの設立について

株式会社新生銀行(東京都中央区、代表取締役社長 工藤 英之、以下、「新生銀行」と)と新生企業投資株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長 松原 一平、以下、「SCI」)は、コンサルティング会社の響きパートナーズ株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長 山川 善之、以下、「響きパートナーズ」と)と共同で、バイオベンチャー企業に対するセカンダリー投資を行う「新生響きブリッジ投資事業有限責任組合」(以下、「新生響きブリッジファンド」)を平成 29 年 3 月 31 日付で設立いたしました。

新生響きブリッジファンドは、SCI と響きパートナーズが共同で設立した新生響きキャピタル株式会社が無限責任組合員(General Partner)として、新生銀行が有限責任組合員(Limited Partner)として出資する総額 3 億円のファンドで、すべてのステージのバイオベンチャーおよびバイオを含むすべての事業分野のレイターステージのベンチャー企業に対するセカンダリー投資を行います。

SCI は、Pre-IPO 投資として、ミドル・レイターステージのベンチャー企業に成長資金の提供を行うとともに、外部パートナーとの共同ファンド設立を積極的に行い、バイオベンチャーに対する投資としては、iPS 細胞関連のバイオ企業、株式会社リプロセルと共同で、国内および海外の iPS 細胞・再生医療関連のバイオベンチャーなどへの投資を行うファンドを平成 26 年 3 月に組成しています。また、平成 28 年 6 月には、バイオ医薬品企業のそせいグループ株式会社のグループ会社が国内の再生医療関連のベンチャー企業への投資を目的として組成したファンドに出資いたしました。

新生響きブリッジファンドに共同出資する響きパートナーズは、ベンチャー企業の IPO 支援を中心に、創業期から成長期にかけての財務戦略や事業計画策定、管理会計・制度会計、組織・人事労務体制構築など、さまざまなステージで経営および実務支援を行っています。IPO 支援に関しては、業界有数の実績を有すると共に、M&A、企業価値評価、グループ再編などのアドバイザー業務にも多くの実績があります。

バイオ関連のベンチャー企業を投資対象とするファンドについては、平成 16 年から平成 19 年ごろに組成のピークを迎えましたが、これらのファンドの多くが満期を迎え始めていることから、新生銀行および SCI では、響きパートナーズと共同で、バイオベンチャー企業へのセカンダリー投資を行うファンドを設立することとしたものです。新生銀行および SCI では、新生響きブリッジファンドの投資活動によるリスクマネーの提供などを通じて、新しい産業分野の育成に貢献してまいります。

【本ファンドの概要】

- 名 称 : 新生響きブリッジ投資事業有限責任組合(「新生響きブリッジファンド」)
設 立 日 : 平成 29 年 3 月 31 日
ファンド規模 : 3 億円
出 資 者 : GP(無限責任組合員)出資: 新生響きキャピタル株式会社(新生企業投資株式会社(50%)、
響きパートナーズ株式会社(50%))
LP(有限責任組合員)出資: 株式会社新生銀行
期 間 : 組合期間 10 年
投 資 対 象 : すべてのステージのバイオ分野のセカンダリー投資案件およびバイオを含むすべての事業分野の
レイターステージのベンチャー企業

【響きパートナーズ株式会社の概要】

- 名 称 : 響きパートナーズ株式会社
設 立 日 : 平成 18 年 12 月 8 日
代 表 者 : 代表取締役社長 山川 善之
本社所在地 : 東京都千代田区麴町 5 丁目 3 番地 麴町中田ビル 9 階
事 業 内 容 : 上場サポート業務、経営サポート業務、フィナンシャルアドバイザーサービス業務、管理体制
サポート業務、人材紹介業務
資 本 金 : 3,075 万円(平成 29 年 3 月 31 日現在)

以 上